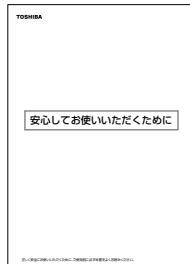


マニュアルの使いかた

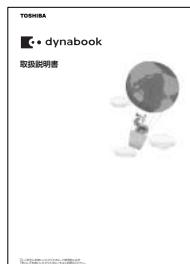
安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。



取扱説明書（本書）

- Windowsのセットアップ
- 基本機能
- 周辺機器の接続
- バッテリで使う方法
- 困ったときは
- 再セットアップ



リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で、次のように操作します。

XP [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報]
をクリック

2000 [スタート] → [はじめに] → [リリース情報] をクリック

もくじ

マニュアルの使いかた	1
もくじ	2
はじめに	6

1章 セットアップ

11

1 パソコンの準備	12
① 電源コードと AC アダプタを接続する	12
② 電源を入れる	13
2 Windows のセットアップ	14
① セットアップの前に	14
② Windows XP のセットアップ	16
③ Windows 2000 のセットアップ	22
3 ユーザ登録をする	29
① 東芝へのユーザ登録	29
② その他のユーザ登録	30

2章 電源を入れる／切る

33

1 電源を入れる	34
2 電源を切る	37
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	39
① スタンバイ	40
② 休止状態	41
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	44

1 各部の名前	48
① 前面図	48
② 背面図	51
③ 裏面図	52
④ 付属品	52
2 キーボード	54
① キーボード図	54
② キーを使った便利な機能	57
③ 日本語を入力するには	61
3 タッチパッド	62
① タッピング	63
② タッチパッドを無効／有効にするには	63
4 ディスプレイ	65
5 サウンド機能	68
6 ドライブ	69
① CD／DVDについて	69
② CD／DVDのセットと取り出し	73
7 SDメモリカード	77
① SDメモリカードについて	77
② SDメモリカードのセットと取り出し	77
③ SDメモリカードを使う前に	79
8 LAN機能	83
① ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）	83
② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）	83
③ ネットワーク設定に便利な機能	90
9 内蔵モデム	94
① 海外でインターネットに接続する	94

4章 周辺機器の接続

97

1	周辺機器について	98
2	PC カードを接続する	99
3	USB 対応機器を接続する	102
4	テレビを接続する	104
5	CRT ディスプレイを接続する	109
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	110
7	その他の機器を接続する	112
①	マイクロホン	112
②	ヘッドホン	113
8	メモリを増設する	114

5章 バッテリ駆動

119

1	バッテリについて	120
①	バッテリ充電量を確認する	121
②	バッテリを充電する	124
③	バッテリパックを交換する	127
2	省電力の設定をする	129

6章 システム環境の変更

135

1	システム環境の変更とは	136
2	東芝HW セットアップを使う	137
3	BIOS セットアップを使う	142
①	起動と終了	142
②	画面と基本操作	144
③	設定項目	146
4	パスワードセキュリティ	157
①	ユーザパスワード	158
②	スーパーバイザパスワード	163
③	パスワードの入力	164

7章 困ったときは 165

1 トラブルを解消するまで	166
① dynabook.com で調べる	168
② トラブル解消に役立つ操作	170
2 Q&A集	171

8章 再セットアップ 205

1 再セットアップとは	206
2 システムの復元	208
① はじめる前に	208
② システムを復元する	209
3 アプリケーションを再インストールする	213

9章 こんなときは 215

1 オンラインマニュアルについて	216
2 パソコンを持ち運ぶときは	217
3 アフターケアについて	218
4 廃棄・譲渡について	219
5 アプリケーションの問い合わせ先	223

付録 225

1 本製品の仕様	226
2 各インターフェースの仕様	237
3 技術基準適合について	241
4 無線 LAN について	255
5 東芝PCダイヤルのご案内	264
① 東芝PCダイヤル	264
② トラブルチェックシート	265
さくいん	266

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいたくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願ひ	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
XP 2000	本書はWindows XP、Windows 2000モデルに共通の説明書です。それに固有の操作や機能名称を示すときは次のマークを使用しています。 ご購入の製品に応じた部分をお読みください。
	Windows XPモデルに固有の操作や機能名称などを示します。
	Windows 2000モデルに固有の操作や機能名称などを示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「」 他のマニュアルへの参照の場合 …『』

* 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要しないけが・やけど・感電などをさします。

* 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版を示します。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版を示します。

Windows Windows XP または Windows 2000 を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002、Microsoft® IME2000 を示します。

Pentium M モデル

インテル®Pentium®M プロセッサ搭載モデルを示します。

Celeron モデル

モバイル インテル®Celeron® プロセッサ搭載モデルを示します。

ドライブ マルチドライブ／CD-ROM ドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

マルチドライブモデル

CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能をもったマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

CD-ROM ドライブモデル

CD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。

無線 LAN モデル

無線 LAN 機能が内蔵されているモデルを示します。

記載について

- ・記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。モデルについては、「用語について」を参考にしてください。
- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱のCDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・Microsoft、Windows、Windows Media、Outlookは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・Intel、インテル、Pentium、Centrino、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobatは Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・InterVideo、WinDVDは InterVideo Incorporated の登録商標または商標です。
- ・駅すばあとは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateは Symantec Corporation の登録商標です。

©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の3つのテクノロジを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

- ・インテル Pentium M プロセッサ
- ・インテル 855 チップセット ファミリ
- ・インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・AC アダプタを接続せずにバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- ・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- ・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
- ・目安として、気温 5 ~ 35°C（高所の場合 25°C）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されてシます。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・無線 LAN の使用によるデータの盗聴、およびそれによる被害に関しては保証できません。
- ・ご使用の際は必ず付属の『エンドユーザ使用許諾契約書』および『CD-ROM/DVD-ROMに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。

本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

参照 ➤ 詳細について「1 章 3-① 東芝へのユーザ登録」

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章

セットアップ

電源を入れて、パソコンを使えるようにするための
Windows のセットアップを行います。
また、ユーザ登録の方法についても説明しています。

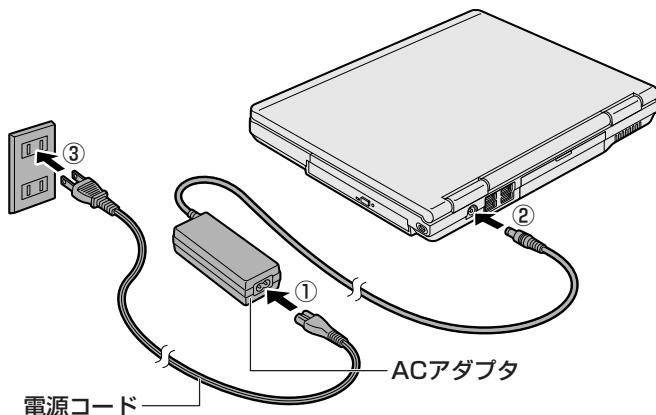
1	パソコンの準備	12
2	Windows のセットアップ	14
3	ユーザ登録をする	29

1 パソコンの準備

ここでは、電源コードと AC アダプタを接続して電源を入れる方法について説明します。

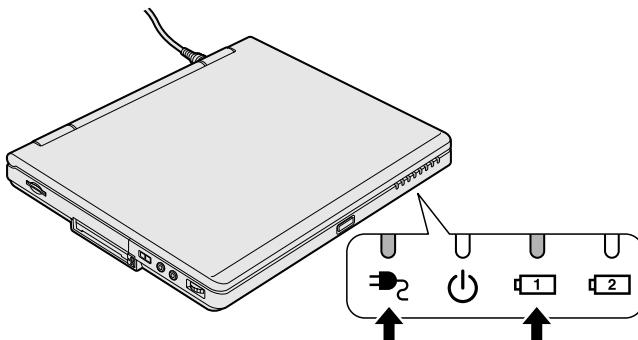
1) 電源コードと AC アダプタを接続する

電源コードと AC アダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。
はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。



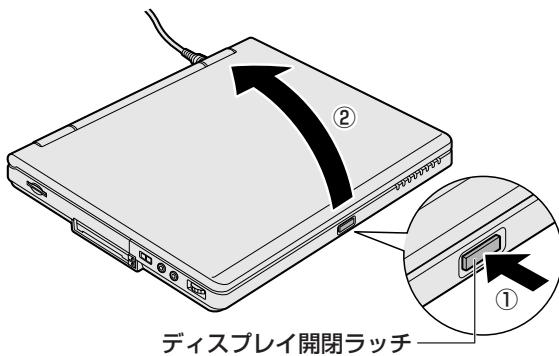
接続すると

DC IN LED が緑色に点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。



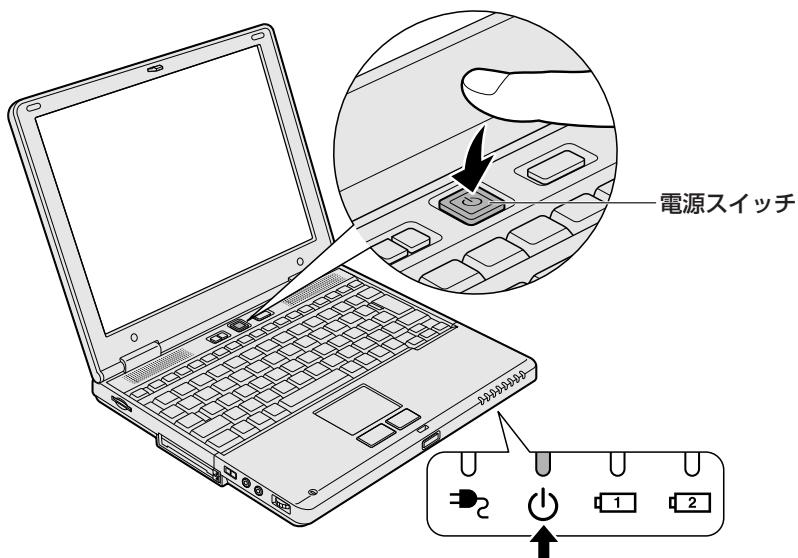
2) 電源を入れる

- 1 ディスプレイ開閉ラッチを押して①、ディスプレイを開ける②
両手を使ってゆっくり起こしてください。



2 電源スイッチを押す

Power  LEDが緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



2 Windows のセットアップ

セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

- 周辺機器は接続しないでください

セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウス、USB フロッピーディスクドライブなどの周辺機器は接続しないでください。

- 途中で電源を切らないでください

セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。

- 操作は時間をあけないでください

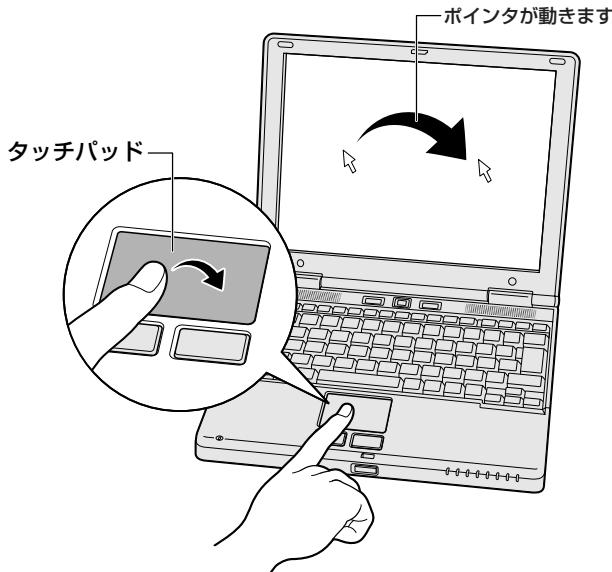
セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう 1 度表示するには、**(Shift)**キーを押すか、タッチパッドをさわってください。

- 使用する Windows の管理番号を「Product Key」といいます。

Product Key はパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からサービスが受けられなくなります。

1 タッチパッドの使いかた

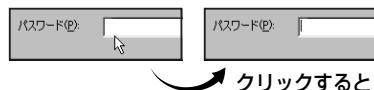
タッチパッドに指を置き、押さえながら上下左右に動かします。
指の動きにあわせてディスプレイ上の「」(ポインタ) が動きます。



目的の位置にポインタをあわせたあと、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。



 を文字入力欄にあわせてクリックすると、「|」(カーソル) が点滅します。「|」の位置から入力できます。



2) Windows XP のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。

初めて電源を入れると、[Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。

音量は本体左側面にあるボリュームダイヤルで調節できます。

参照 音量の調節について「3 章 5 サウンド機能」

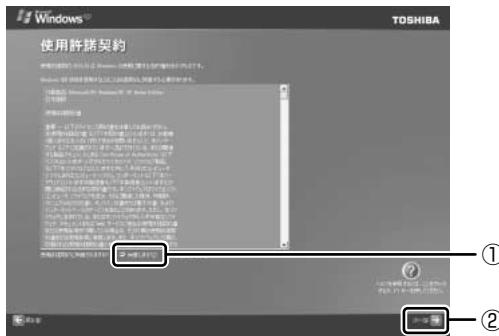
1 [次へ] ボタンをクリックする



画面右下の ボタンをクリックするか F1 キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

2 [使用許諾契約] の内容を確認して [同意します] の左にある○をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windows を使用することはできません。

- ☑ ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。
- [コンピュータに名前を付けてください] 画面が表示されます。

3 [このコンピュータの名前] にコンピュータ名を入力し①、[次へ] ボタンをクリックする②



半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。
企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

- [管理者パスワードを設定してください] 画面が表示されます。

4 [管理者パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力する



Administratorと呼ばれる管理者のユーザーアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザーアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。

パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

参照 ➤ 入力を使うキーの位置について「3章 2 キーボード」

[管理者パスワード] 欄での入力後、Tabキーを押すと「|」(カーソル)が [パスワードの確認入力] 欄に移動します。

5 [次へ] ボタンをクリックする



[このコンピュータをドメインに参加させますか?] 画面が表示されます。ドメインの設定は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

6 [いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません] の左にある○をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



[インターネット接続が選択されませんでした] 画面が表示されます。

7 [省略] ボタンをクリックする

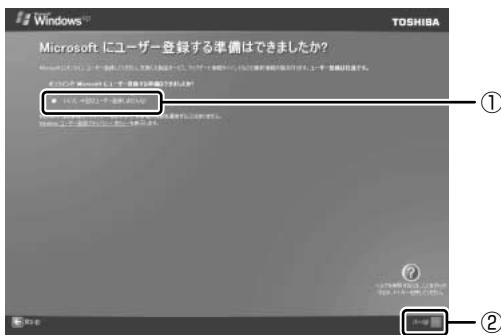
[インターネット接続が選択されませんでした] 画面ではなく [インターネットに接続する方法を指定してください] 画面が表示されることがあります。その場合も、[省略] ボタンをクリックしてください。



[Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?] 画面が表示されます。

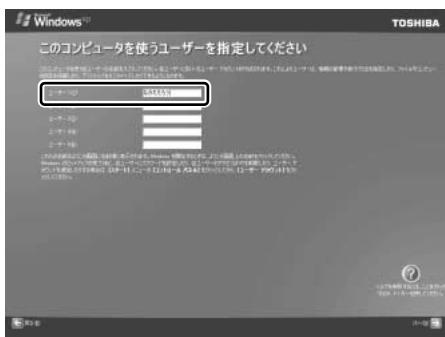
マイクロソフト社へのユーザ登録は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

- 8 [いいえ、今回はユーザー登録しません] の左にある○をクリックし
①、[次へ] ボタンをクリックする②



[このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面が表示されます。

- 9 [ユーザー 1] 欄に使う人の名前を入力する



Windows XP では複数（5人まで）のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは1人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ

- ローマ字入力で入力する場合

「なかた」と入力するときは、キーボードで **N A K A T A Enter** と押します。

キーを押しても文字が表示されない場合は、[ユーザー] 欄に「|」(カーソル) が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、[ユーザー] 欄をクリックしてください。

文字の入力を間違えたら、**(BackSpace)** キーを押して入力ミスした文字を削除します。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[設定が完了しました] 画面が表示されます。

11 [完了] ボタンをクリックする



Windows のセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動し、デスクトップ画面が表示されます。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。

C ドライブ : NTFS システム

- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

参照 ユーザ登録について「本章 3 ユーザ登録をする」

Windows XP の使いかた

Windows XP の使いかたについては『ファーストステップガイド』、または [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windows のヘルプ』を参照してください。

3) Windows 2000 のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。

初めて電源を入れると、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。



1 [次へ] ボタンをクリックする

[ライセンス契約] 画面が表示されます。

契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックして、画面をスクロールさせてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



2 画面下部の【同意します】をチェックして【次へ】ボタンをクリックする

【同意しません】を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

【ソフトウェアの個人用設定】画面が表示されます。



3 名前と組織名を入力する

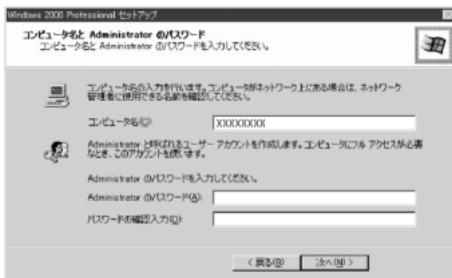
名前は必ず入力してください。組織名は省略できます。組織名を入力するには、名前の入力後(Tab)キーを押します。

メモ

- 日本語入力システムが起動しています。
ひらがなや漢字の入力のしかた
標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。
例：“なかた”または“中田”と入力する場合
 - (N)(A)(K)(A)(T)(A)とキーを押す
“なかた”と表示されます。入力ミスをした場合は、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。
 - ひらがなのままでよい場合は、(Enter)キーを押す
“なかた”で確定されます。
漢字に変換する場合は(Space)キーを押し、目的の漢字が表示されたら、(Enter)キーを押す
(Space)キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。
(Enter)キーを押すと、選択した漢字で確定します。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] 画面が表示されます。



5 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する

コンピュータ名は自動で作成されます。変更する場合は、半角英数字で 15 字以内の名前を入力してください。

Administrator と呼ばれるユーザ名を作成します。コンピュータにフルアクセスする場合に使用します。パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。

パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。

例えば、「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

6 [次へ] ボタンをクリックする

[日付と時刻の設定] 画面が表示されます。



7 [日付と時刻] の設定をする

日付と時刻を確認します。

タイムゾーンで「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていることを確認します。

「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていない場合は▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

8 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワークの設定] 画面が表示されます。



9 ネットワークの設定をする

ネットワークの設定はネットワーク管理者に問い合わせてください。

標準設定またはカスタム設定のどちらかを選択してください。

標準設定 : Microsoft ネットワーククライアント、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタの共有サービス、およびアドレスを自動的に指定する TCP/IP トランスポートプロトコルを使ってネットワーク接続を作成します。

カスタム設定 : 手動でネットワークコンポーネントを構成することができます。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示されます。



11 ワークグループまたはドメイン名の設定をする

ワークグループまたはドメインのどちらかを選択してください。

選択後、[ワークグループまたはドメイン名] にワークグループ（ドメイン）名を入力してください。

12 [次へ] ボタンをクリックする

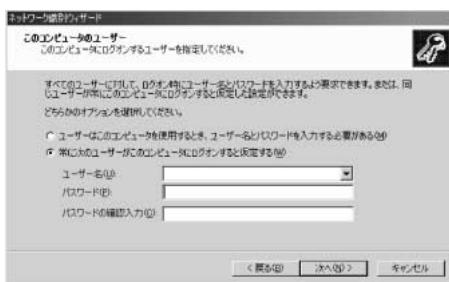
設定の保存後、再起動します。再起動後に [ネットワーク識別ウィザードの開始] 画面が表示されます。

ここで、コンピュータをネットワークに接続する手続きをします。



13 [次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータのユーザー] 画面が表示されます。



14 ユーザの設定をする

このコンピュータで使用するユーザを指定します。

- [ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある]
 - …指定したユーザでパスワードを入力してからログオンします。
 - [常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する]
 - …指定したユーザで自動的にログオンします。
- ここで指定できるユーザは手順 3 で入力した名前、あるいは Administrator です。
- ▼ボタンをクリックして選択してください。

15 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク識別ウィザードの終了] 画面が表示されます。

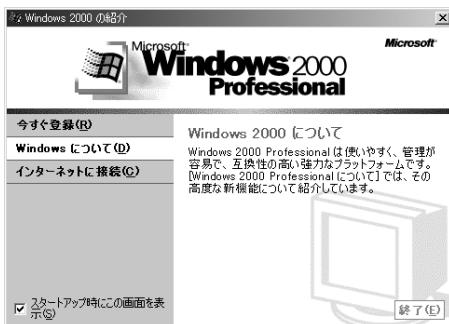


16 [完了] ボタンをクリックする

Windows 2000 のセットアップを完了しました。

手順 14 で [ユーザーはこのコンピュータを使用するとき…] を選択した場合、[Windowsへのログオン] 画面が表示されます。Administrator パスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックすると、Administrator でログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。

手順 14 で [常に次のユーザーがこのコンピュータに…] を選択した場合、指定されたユーザ（Administrator または例：中田）で自動的にログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。



[Windows 2000 の紹介] の下部にあるチェックボックス（スタートアップ時にこの画面を表示）をクリックしてチェックを解除すると、次に Windows 2000 が起動したときは [Windows 2000 の紹介] は表示されません。

[Windows 2000 の紹介] 画面を再表示するには、[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [はじめに] をクリックしてください。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
C ドライブ : NTFS システム
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

参照 ➔ ユーザ登録について「本章 3 ユーザ登録をする」

Windows 2000 の使いかた

Windows 2000 の使いかたについては『クイックスタートガイド』、または [スタート] → [ヘルプ] をクリックして、『Windows のヘルプ』を参照してください。

3 ユーザ登録をする

1 東芝へのユーザ登録

本製品を使うにあたって、お客様へのサービス・サポートを充実させるために東芝へのお客様登録を推奨しています。

東芝パソコンをさらに便利に使うためのノウハウ、新商品やイベント情報の案内などの特典があります。

登録は、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。

「登録はがき」で登録する場合、本製品に同梱されている「登録はがき」に必要事項を記入し、送付してください。

インターネットで登録する場合、パソコンにモジュラーケーブルを取り付けて、インターネットに接続してから次の手順で行ってください。

1 東芝ホームページから登録する

インターネットに接続するための設定を行った後、次のアドレスを入力して、表示された画面から登録してください。

<http://dynabook.com/tpmc/userj/>

2 「東芝PC お客様登録」を使う

インターネットでユーザ登録をするための「東芝PC お客様登録」を使用できます。

デスクトップ上の「東芝PC お客様登録」アイコン（）をダブルクリックし、表示される画面に従って設定を行ってください。

【[インターネットプロバイダと未契約の方] を選択した場合】

インターネットプロバイダ「infoPepper」への入会とパソコンのユーザ登録を1度に行うことができます。「infoPepper」への初期登録料と接続時間に応じた料金がかかりますので、あらかじめご了承ください。

「infoPepper」以外のプロバイダへの入会を希望する場合は、プロバイダに入会してパソコンの設定を行った後、「[インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくはLAN経由でインターネット接続されている方] を選択してください。

【[インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくはLAN経由でインターネット接続されている方] を選択した場合】

インターネットに接続してユーザ登録できます。

【[インターネット経由で登録を希望しない方] を選択した場合】

はがきでユーザ登録するメッセージが表示されます。

2) その他のユーザ登録

1 マイクロソフト社へのユーザ登録

登録すると、本製品に添付されているマイクロソフト社製品の今後のサービス・サポートを受けることができます。

Windows XPの場合、インターネットで登録を行います。

Windows 2000の場合、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」を行います。

インターネットで登録する場合、パソコンにモジュラーケーブルを取り付けてインターネットに接続してから、次の手順で行ってください。

【Windows XPの場合】

- 1 [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
[ヘルプとサポート センター] 画面が表示されます。
- 2 画面左の [Windows XP の新機能] をクリックする
- 3 左画面の [ライセンス認証、ライセンス、およびユーザー登録] をクリックする
- 4 右画面の [オンラインユーザー登録を使用する] をクリックする
- 5 右画面の説明文中の [ユーザー登録ウィザード] をクリックする
[Microsoft Windows XP ユーザ登録ウィザード] が起動します。
- 6 表示される画面の指示に従って登録を行う
ユーザーIDを持っていない場合は、所有者情報を入力する画面の [マイクロソフト オフィシャルユーザーID] 欄に「WindowsXP」と入力してください。

【Windows 2000の場合】

- 1 [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [はじめに] をクリックする
- 2 [今すぐ登録] をクリックする
ウィザードが起動します。画面の指示に従って操作してください。

2 その他のアプリケーションのユーザ登録

本製品に添付されている各アプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプを確認してください。

また、各アプリケーションの問い合わせ先については、「9章 5 アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

2章

電源を入れる／切る

ここでは、Windows のセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。また、パソコンの使用を一時的に中断させたいときの操作方法についても説明しています。

-
- 1 電源を入れる 34
 - 2 電源を切る 37
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 39

1 電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

参照 初めて電源を入れるとき「1章 セットアップ」

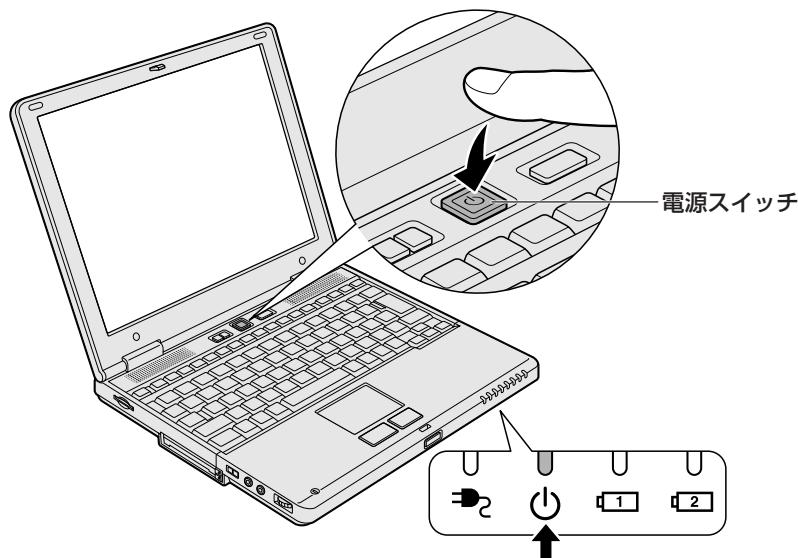
お願い 電源を入れる前に

- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチを押す

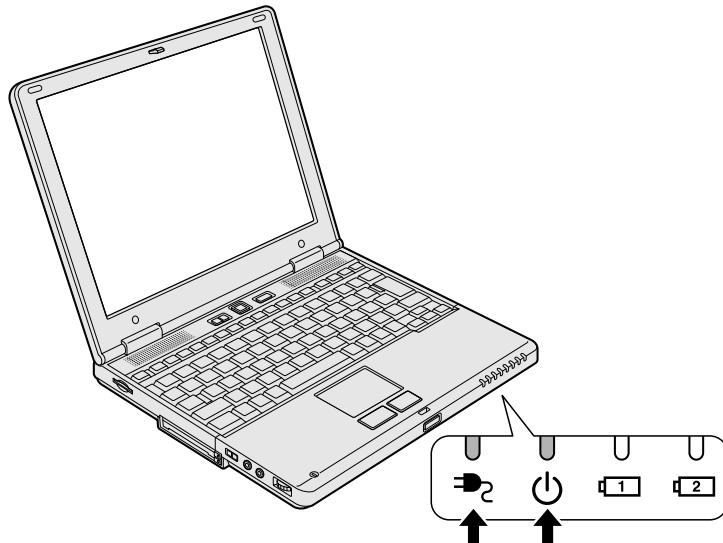
Power LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



Windows が起動します。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。



	状態	パソコン本体の状態
DC IN ➔ LED	緑の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 (AC アダプタ、バッテリ、またはパソコン本体の異常)
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power ⏪ LED	緑の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源 OFF、休止状態中

【パスワードを設定している場合】

パスワードを設定している場合は、電源を入れると「Password=」などの入力画面が表示されます。

設定したパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押してください。

メモ

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

参照 → パスワードについて「6章4 パスワードセキュリティ」

【メッセージが表示される場合】

不明なメッセージについては、「7章2- メッセージ」をご覧ください。

3 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【方法1】

電源を入れたときに表示されるアイコンから、起動するドライブを選択できます。

1 **(F12)**キーを押しながら電源スイッチを押す

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。



アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → CD-ROM ドライブ → FDD → ネットワーク → PC カード

2 **→**キーまたは**←**キーで起動したいドライブを選択し、**(Enter)**キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【方法2】

「東芝HWセットアップ」の「OSの起動」タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 → 設定の変更「6章2 東芝HWセットアップを使う」

2 電源を切る

正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。

パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 ➤ **スタンバイ、休止状態**

「本章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED や CD-ROM LED、SD Card LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 操作手順

【Windows XPの場合】

1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。



2 [電源を切る] をクリックする



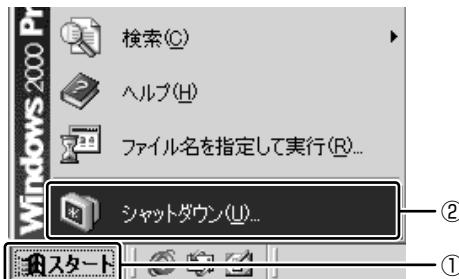
ドメイン参加している場合は、[Windows のシャットダウン] 画面で ▼ ボタンをクリックし①、[シャットダウン] を選択し②、[OK] ボタンをクリックしてください。



Windows が終了し、電源が切れます。Power LED が消灯します。

【Windows 2000 の場合】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②



- 2 ▼ ボタンをクリックし①、[シャットダウン] を選択する②



- 3 [OK] ボタンをクリックする

Windows が終了し、電源が切れます。Power LED が消灯します。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

お願い

操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。
また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消費します。バッテリを使い切ってしまうとデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

【Windows XP の場合】

1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。



2 [スタンバイ] をクリックする



ドメイン参加している場合は、[Windows のシャットダウン] 画面で ボタンをクリックし、[スタンバイ] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

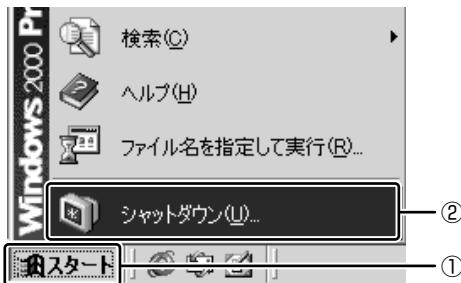
メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

[Fn]+[F3] キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

【Windows 2000 の場合】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②



- 2 ▼ボタンをクリックし①、[スタンバイ] を選択する②



- 3 [OK] ボタンをクリックする

スタンバイ状態になり、Power (P) LED がオレンジ色に点滅します。

(Fn)+(F3)キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

② 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【Windows XPの場合】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。



3 **[Shift]**キーを押したまま [休止状態] をクリックする

[Shift]キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



ドメイン参加している場合は、[Windows のシャットダウン] 画面で **▼** ボタンをクリックし、[休止状態] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

Disk LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。

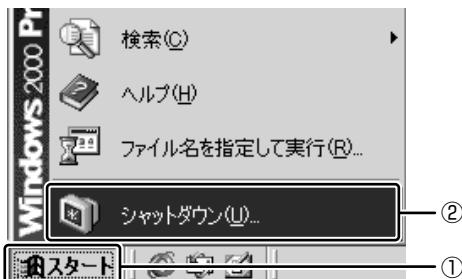
[Fn]+[F4]キーを押して、休止状態にすることもできます。

【Windows 2000 の場合】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②



3 □ ボタンをクリックし①、[休止状態] を選択する②



4 [OK] ボタンをクリックする

休止状態になり、Power LED が消灯します。

(Fn)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節② 休止状態」を参照して、設定してください。

1 電源スイッチを押す

購入時には「電源オフ」に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

① XP

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

2000

[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

③ [動作] タブの「電源ボタンを押したとき」で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

Windows XPの場合、手順①の③で「[入力を求める]」を選択したときは、[Windows のシャットダウン] 画面または「[コンピュータの電源を切る]」画面が表示されます。「[何もしない]」を選択したときは、電源スイッチを押しても何も動作しません。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって〔スタンバイ〕〔休止状態〕または〔電源オフ〕(■2000)のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には〔休止状態〕に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

① ■XP

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

■2000

[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の③で〔スタンバイ〕または〔休止状態〕を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。〔何もしない〕を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

3章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいうように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

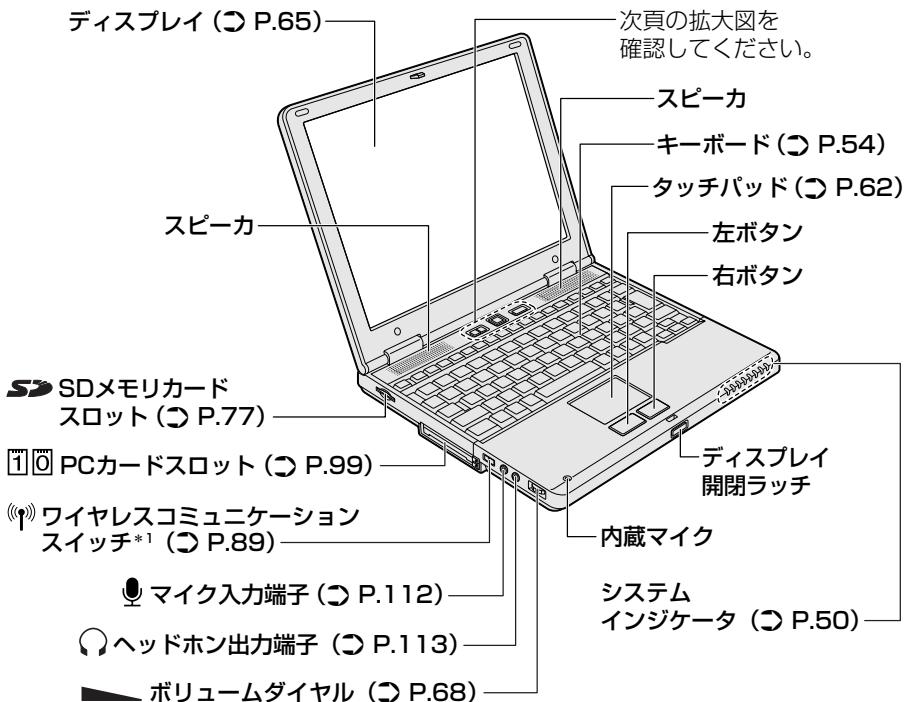
1	各部の名前	48
2	キーボード	54
3	タッチパッド	62
4	ディスプレイ	65
5	サウンド機能	68
6	ドライブ	69
7	SDメモリカード	77
8	LAN機能	83
9	内蔵モデム	94

1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

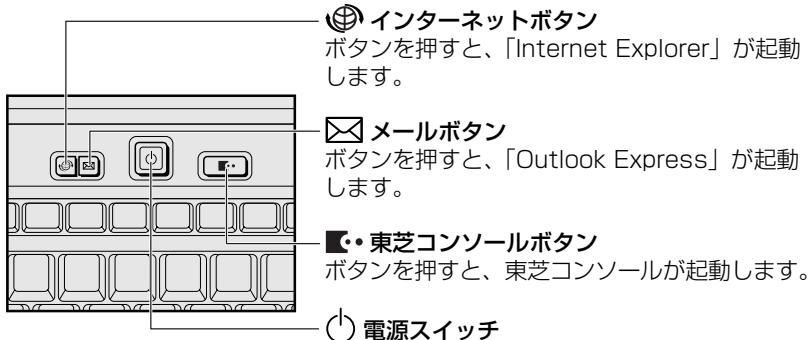
それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1) 前面図



* 1 無線 LAN モデルのみ

【スイッチ部の拡大図】



【電源スイッチについて】

電源スイッチのランプは、ディスプレイを開けると点灯し、ディスプレイを閉じると消灯します。

また次の場合にもランプが消灯します。

- ・電源を切ったあと 1 分経過したとき
- ・ディスプレイを開けてから電源スイッチを押さずに 1 分経過したとき

電源スイッチのランプは、パソコンの状態によって光りかたが変化します。

参照 ➔ 光りかたの設定「6章 2-2- [ボタン設定] タブ」

【ワンタッチボタンについて】

- パソコン本体の電源が入っていないとき

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

- スタンバイ状態／休止状態のとき

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

インターネットボタン、メールボタン、東芝コンソールボタンで起動するアプリケーションは「コントロールパネル」の「東芝コントロール」で変更できます。

【システムインジケータ】

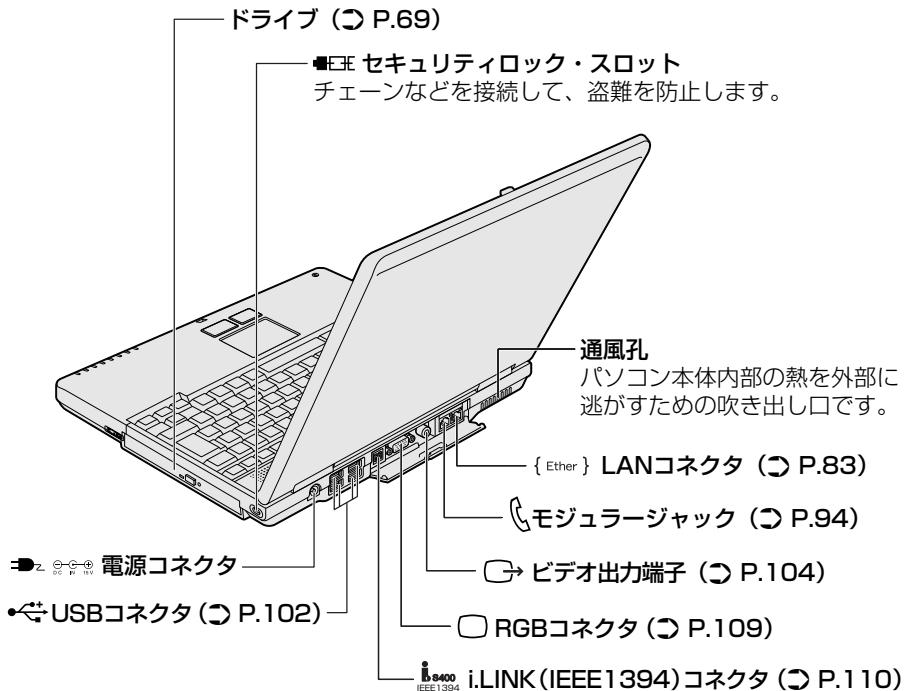
それぞれは、次の状態を示します。

	DC IN LED	電源コードの接続
	Power LED	電源の状態
	Battery LED	バッテリの状態
	セカンドバッテリ LED *1	セカンドバッテリの状態
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
	CD-ROM LED	ドライブにアクセスしている
	SD Card LED	SD メモリカードスロットにアクセスしている
	ワイヤレス コミュニケーション LED *2	無線通信機能の状態

*1 本製品には、セカンドバッテリパック（別売り）を取り付けることができます。セカンドバッテリパックの詳細については、『セカンドバッテリパックに付属の取扱説明書』を確認してください。

*2 無線通信機能が搭載されていない場合は点灯しません。

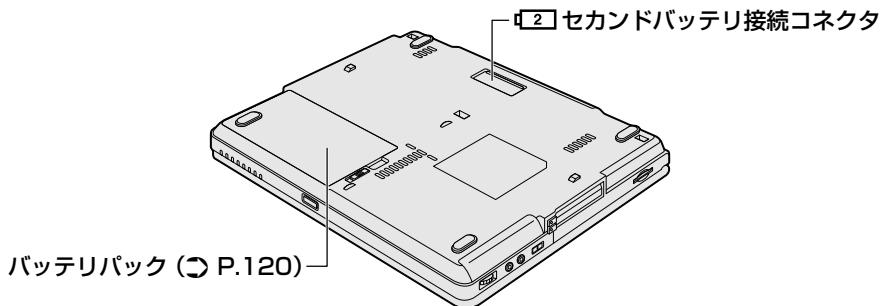
2) 背面図



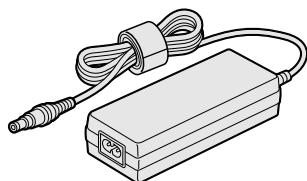
メモ

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

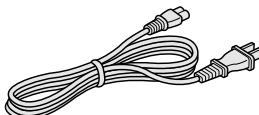
3 裏面図



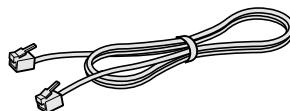
4 付属品



ACアダプタ



電源コード



モジュラーケーブル

⚠ 警告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用してください。本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や(+)(-)の極性が異なっていることがあるため、過熱・火災・破裂のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず「1章 1-①電源コードとACアダプタを接続する」に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

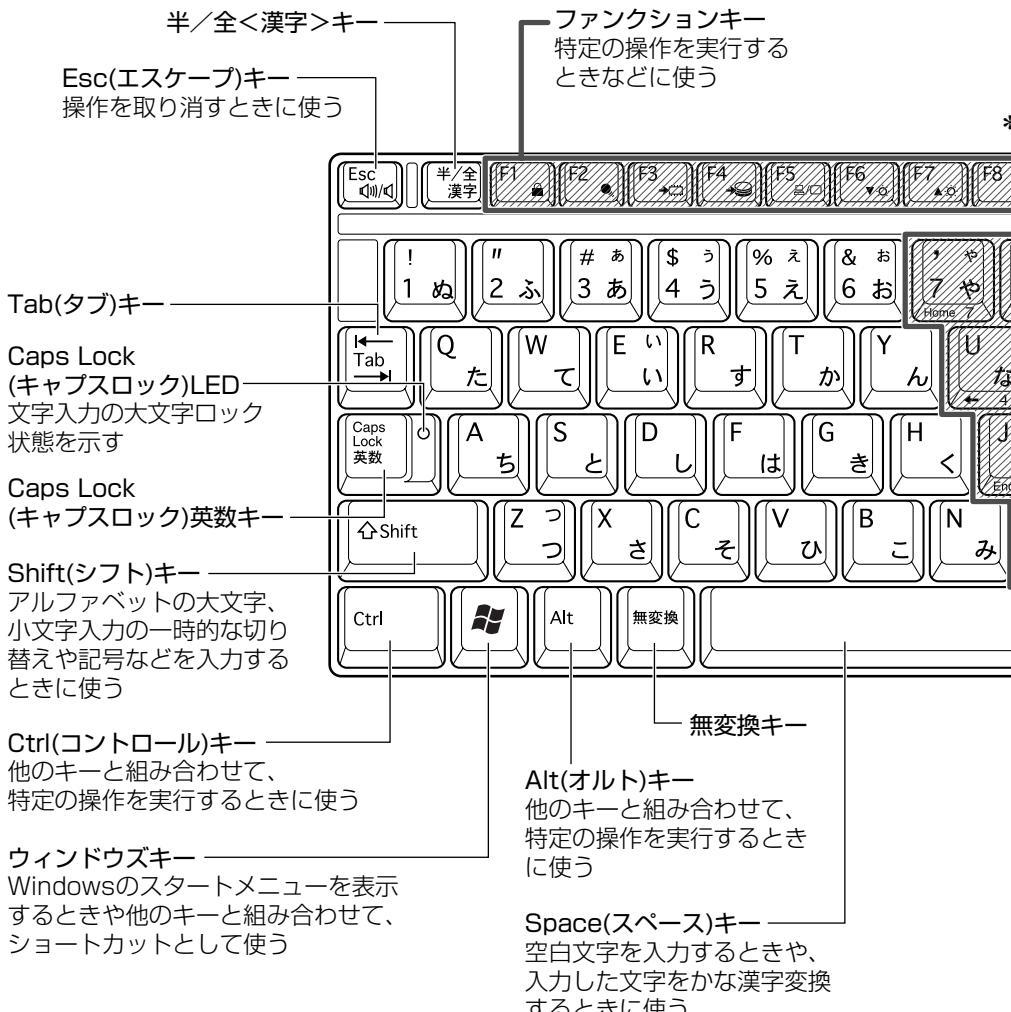
パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

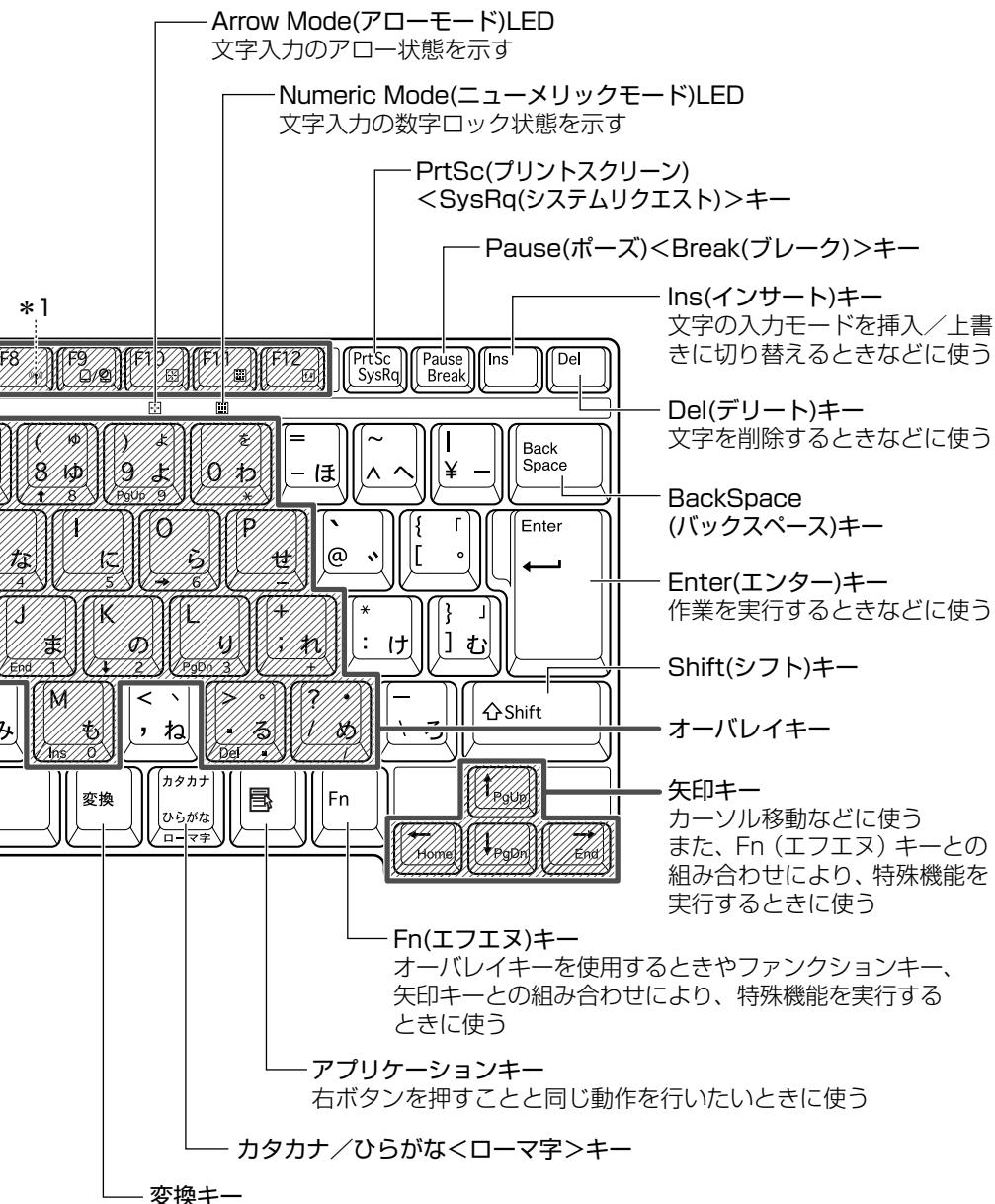
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度5~35°C、湿度20~80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





* 1 本製品ではサポートしておりません。

【文字キー】

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

■ 左上

(Shift)キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。

■ 右上

かな入力ができる状態で(Shift)キーを押しながら押すと、記号、ひらがなのそくおん促音(小さい「っ」)、拗音(小さい「や、ゅ、ょ」)が入力できます。

■ 左下

他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。

大文字ロック状態にすると、大文字も入力できます。

■ 右下

かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

■ 前面左

アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。

■ 前面右

数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。



アロー状態、数字ロック状態
「本節 ②-(Fn)キーを使った特殊機能キー」

2) キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【**[Fn]**キーを使った特殊機能キー】

キー	内容
[Fn]+[Esc] 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度 [Fn]+[Esc] キーを押します。
[Fn]+[F1] 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① [Shift] キーや [Ctrl] キーを押す、またはタッチパッドを操作する 複数のユーザで使用している場合は、ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、 [Enter] キーを押す パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時にようこそ画面に戻る] をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。
[Fn]+[F2] 〈省電力モードの設定〉	[Fn]+[F2] キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 [Fn] キーを押したまま、 [F2] キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。
[Fn]+[F3] 〈スタンバイ機能の実行〉	[Fn]+[F3] キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます* ¹ 。
[Fn]+[F4] 〈休止状態の実行〉	[Fn]+[F4] キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると休止状態が実行されます* ¹ 。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 ➡ 「4章 4 テレビを接続する」
(Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます*2。
(Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます*2。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッド オン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。 参照 ➡ 「本章 3-2 タッチパッドを無効／有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excelなど）によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。
(Fn)+① 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、①キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn)+② 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、②キーを押すと、次のページに移動できます。

キー	内容
(Fn)+← <Home (ホーム)>	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn)+→ <End (エンド)>	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

* 1 表示される画面で【今後、このメッセージを表示しない】をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

* 2 液晶ディスプレイの点灯直後は、約18秒間、輝度の変更はできません。その間、液晶ディスプレイの点灯を安定させるため、自動的に最高輝度となります。

【キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
+(R)	【ファイル名を指定して実行】画面を表示する
+(M)	すべての画面を最小化する
Shift)+(img alt="Windows logo icon")+(M)	+(M)キーで最小化したすべての画面を元に戻す
+(F1)	『Windows のヘルプ』を起動する
+(E)	【マイコンピュータ】画面を表示する
+(F)	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl)+(img alt="Windows logo icon")+(F)	他のコンピュータを検索する
+(Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
+(Break)	【システムのプロパティ】画面を表示する

【特殊機能キー】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows のセキュリティ] または [Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

3) 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS-IME が搭載されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。(半/全)キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。

- MS-IME2002 の場合



- MS-IME2000 の場合



入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。

ローマ字入力とかな入力は(Alt)+(カタカナひらがな)キーを押すと切り替えられます。この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。

常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

- ① ツールバーの [ツール] アイコン () から [プロパティ]、または [プロパティ] アイコン () をクリックする
- ② [全般] タブで [ローマ入力/かな入力] の設定をする

漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、(Space)キーを押します。

目的の漢字ではない場合は、もう 1 度(Space)キーを押して、他の漢字を表示します。さらに(Space)キーを押すと、候補の一覧が表示されます。

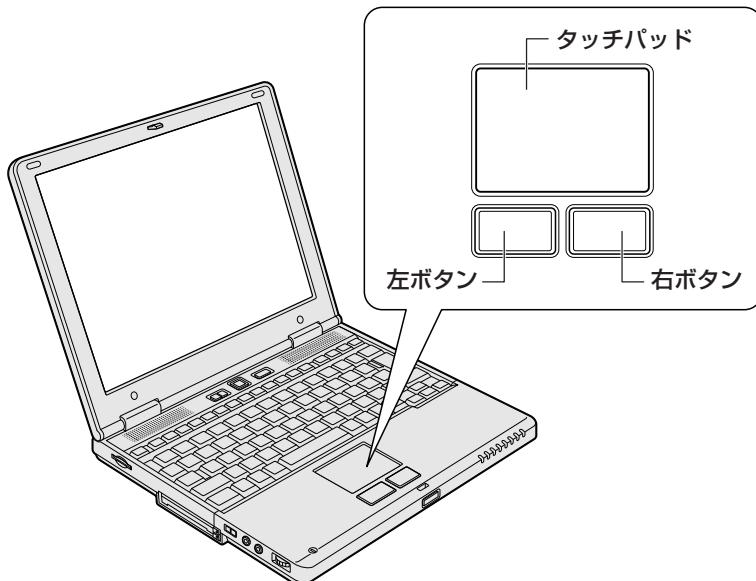
(↑)(↓)キーで選択し、(Enter)キーを押します。

メモ

MS-IME の使いかたについてはツールバーの [ヘルプ] アイコン () または () から『MS-IME のオンラインヘルプ』をご覧ください。

3 タッチパッド

電源を入れて Windows を起動すると画面上に  (ポインタ) が表示されます。タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使って、ポインタを操作します。



お願い

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなど先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

タッチパッドに指を置き、上下左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。

クリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンまたは右ボタンを1回押します。
ダブルクリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンをすばやく2回続けて押します。
ドラッグアンドドロップ	左ボタンを押したまま、タッチパッドでポインタを移動します(ドラッグ)。 ドラッグの操作の最後に、目的の場所でボタンから指を離します(ドロップ)。

1) タッピング

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

クリック	タッチパッドを1回軽くたたきます。
ダブルクリック	タッチパッドを2回軽くたたきます。
ドラッグアンドドロップ	タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。
スクロール	タッチパッドの右端に指を合わせて上下に動かします（上下スクロール）。 タッチパッドの下端に指を合わせて左右に動かします（左右スクロール）。

タッチパッドや左ボタン／右ボタンは[マウスのプロパティ]で設定を変更できます。

2) タッチパッドを無効／有効にするには

タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

【方法1—(Fn)+(F9)キーを押す】

1 (Fn)+(F9)キーを押す

タッチパッドからの入力が一時的に無効になります。

解除するには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。

(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

【方法2—マウスのプロパティで設定する】

- 1 タスクバーの [TouchPad] アイコン () をダブルクリックする
[マウスのプロパティ] は、[コントロールパネル] の [マウス] からも表示できます。
- 2 [タッチパッド ON/OFF] タブで、[有効] または [無効] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする
[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。



■ ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の ? をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

4 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 ➔ CRT ディスプレイの接続について
「4 章 5 CRT ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

【Pentium M モデルの場合】

2048 × 1536 ドット	
1920 × 1440 ドット	
1600 × 1200 ドット	
1400 × 1050 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	
640 × 480 ドット	

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

【 Celeron モデルの場合 】

1600 × 1200 ドット	65,536 色
1280 × 1024 ドット	65,536 色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。

ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1 XP

[コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリック → [ 画面] をクリックする

2000

[コントロールパネル] を開き、[ 画面] をダブルクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブの【画面の解像度】または【画面の領域】で、解像度を変更する



3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

5 サウンド機能

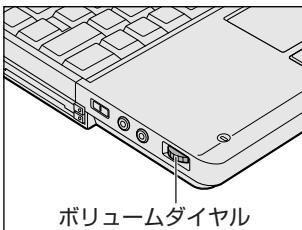
本製品はサウンド機能とスピーカを内蔵しています。

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。

● Pentium M モデル



● Celeron モデル



詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

6 ドライブ

本製品には、モデルによって CD-ROM ドライブまたはマルチドライブが 1 台内蔵されています。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。CD／DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1) CD／DVD について

1 使用できるCD

【読み出しきれるCD】

- 音楽用 CD
- フォト CD
- CD-ROM
- CD エクストラ
- CD-R
- CD-RW

【書き込みきれるCD】

*マルチドライブモデルのみ

● CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

CD-R の書き込み速度は最大 24 倍速です。24 倍速で書き込むためには 24 倍速書き込みに対応した CD-R を使用してください。

● CD-RW

CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。

マルチスピード CD-RW : 最大 4 倍速

High-Speed CD-RW : 最大 10 倍速

Ultra Speed CD-RW : 最大 24 倍速

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

: 三菱化学(株)、(株)リコー

CD-RW (Ultra Speed)

: 三菱化学(株)

CD-R : 太陽誘電(株)、三井化学(株)、三菱化学(株)、(株)リコー、

日立マクセル(株)

これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 ➔ エラーチェック《サイバーサポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

CD-RW、CD-R への書き込みについて（マルチドライブモデル）

CD-RW、CD-R に書き込みを行うためのアプリケーションとして「Drag'n Drop CD + DVD」が用意されています。ご使用の際はアプリケーション CD-ROM からインストールしてください。

本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外の CD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows 標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らざるに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

書き込みに失敗した CD-R の損害については、当社は一切その責任を負いません。

また、記憶内容の変化・消失など、CD-RW、CD-R に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的存在については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

お願い CD-RW、CD-Rに書き込む前に

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 ➤ 省電力機能について 「5章 2 省電力の設定をする」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・スクリーンセーバ
 - ・ウイルスチェックソフト
 - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・モデムなどの通信アプリケーション など
 ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SDメモリカード、PCカードタイプのハードディスクドライブ、USB接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PCカード、USB対応機器、CRTディスプレイ、i.LINK対応機器、SDメモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 使用できるDVD

*マルチドライブモデルのみ

【読み出しできるDVD】

- DVD-ROM ●DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-RW ●DVD-R ●DVD-RAM

DVD-Video の再生について

DVD-Video の再生を行うためのアプリケーションとして「InterVideo WinDVD」が用意されています。ご使用の際はアプリケーション CD-ROM からインストールしてください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。
「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

詳しくは、「InterVideo WinDVD」の「Readme」に記載しています。
「Readme」をよく読んで使用してください。

2) CD／DVD のセットと取り出し

ここでは、マルチドライブモデルを例にCD／DVDのセットと取り出しについて説明します。

お願い 操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ドライブ関係のLEDおよびディスクトレイ LEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

イジェクトホールについて「本項 2 CD／DVD の取り出し」

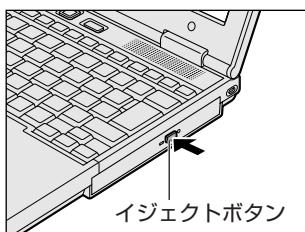
- ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。ケガのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。

チェック

- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れを拭き取ってから再生してください。
- CD／DVDの特性やCD-RW、CD-Rなどの書き込み時の特性によって、読み出しきれない場合もあります。

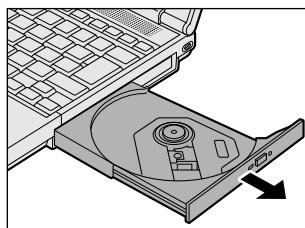
1 CD／DVDのセット

- 1 パソコン本体の電源を入れる
- 2 イジェクトボタンを押す



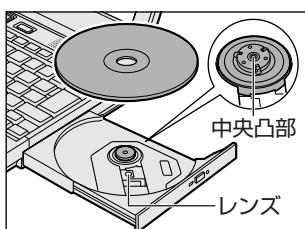
イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

- 3 ディスクトレイを引き出す



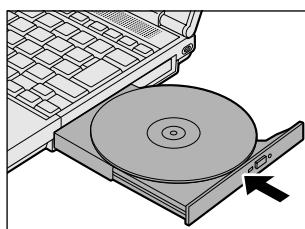
CD／DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

- 4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVD の穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする



力チッと音がして、セットされていることを確認してください。

- 5 カチッと音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



2 CD／DVDの取り出し

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

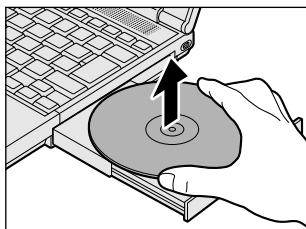
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出でてきます。

3 ディスクトレイを引き出す

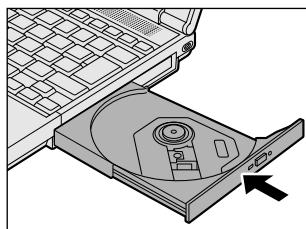
CD／DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

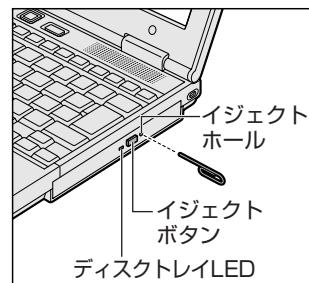
5 カチッと音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



【ディスクトレイが出てこない場合】

電源を切っているときは、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。次の場合には、電源が入っていても、イジェクトボタンを押した後すぐにディスクトレイは出てきません。ディスクトレイLEDの点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき

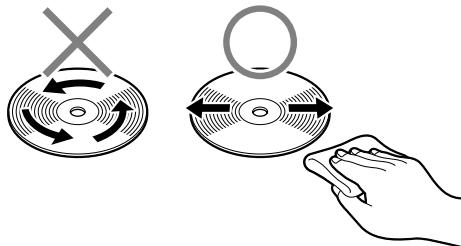


CD／DVD の取り扱いと手入れ

CD／DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけるよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD／DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD／DVD を読み込むことができなくなります。
- CD／DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD／DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD／DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD／DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD／DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD／DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



7 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1) SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

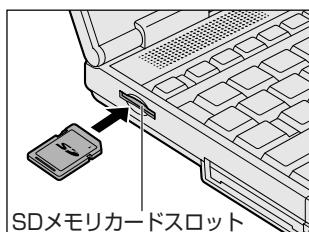
2) SD メモリカードのセットと取り出し

お願い

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card  LED が点灯します。

参照 → SD Card  LED

「本章 1-①- システムインジケータ」

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する



- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする



- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

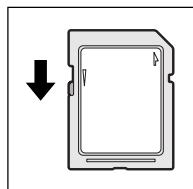
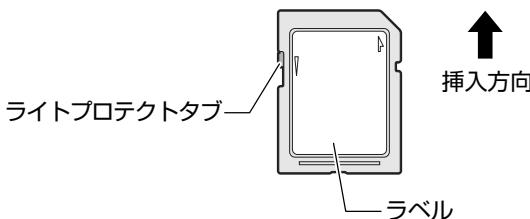
2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3) SDメモリカードを使う前に

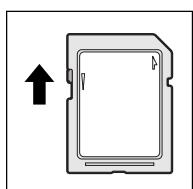
1 ライトプロテクトタブ

SDメモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモリカードのフォーマット

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝SDメモリカードフォーマット」またはSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモリカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows上（[マイコンピュータ]画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝SDメモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

お願い

- 「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 SDメモリカードをセットする

2 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [東芝SDカードユーティリティー] → [東芝SDメモリカードフォーマット] をクリックする

- 3 [ドライブ] で、フォーマットしたいSDメモリカードがセットされているドライブを確認し、必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定する



- 簡易フォーマット

ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。

- 完全フォーマット

SDメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

- 4 [スタート] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

- 5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

- 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

SDメモリカードの取り扱い

SDメモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

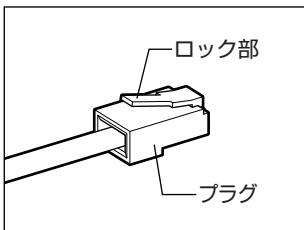
- SDメモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作つて保管するようにしてください。
SDメモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ゴミや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモリカードに付属のケースに入れてください。
- SDメモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

8 LAN 機能

1) ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernet を自動的に検出して切り替えます。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windows のヘルプ』を確認してください。または、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

2) ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

*無線 LAN モデルのみ

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線LANの概要

無線 LAN モデルには、IEEE802.11b に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されており、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能
11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能です。
- 周波数チャネル選択 (2.4GHz 帯)
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化 (WEP)

【無線 LAN の種類】

無線 LAN は、IEEE802.11b に準拠する無線ネットワークです。無線 LAN は最大 11Mbps の転送レートをサポートしています。

- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE 802.11 に準拠する他社の無線 LAN システムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認定マークです。

【セキュリティ】

WEP (暗号化) 機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

○お願い 無線 LAN を使用するにあたって

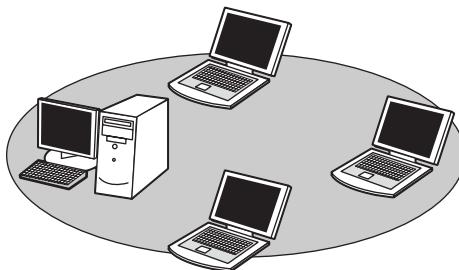
- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で使用してください。無線通信のレンジを最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国で適用される無線規制については、「付録 4-6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような【ファイルとプリンタの共有】などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。

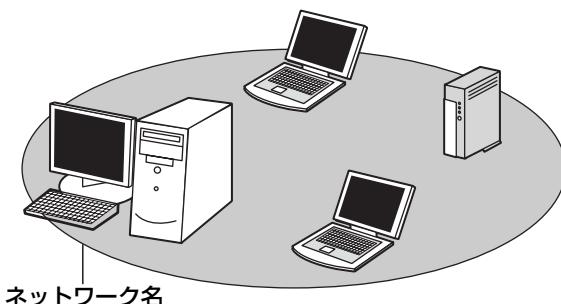


インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用してバックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

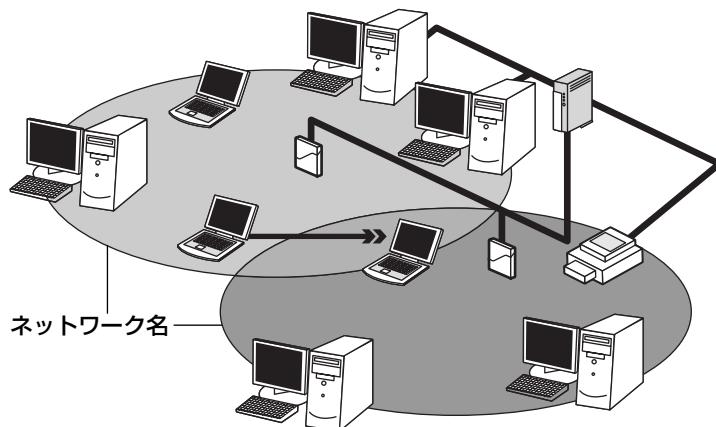
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。
詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 Windows 2000 で無線 LAN を使う場合

Pentium M モデルの場合

「Intel(R) PROSet」を使用して、次の機能を利用できます。

- ネットワークへの無線接続の状況を確認する
- 無線 LAN の設定を表示／変更する

【Intel(R) PROSet のインストール】

「Intel(R) PROSet」をご使用の際はアプリケーション CD-ROM からインストールしてください。インストールはコンピュータの管理者アカウントで行います。

【 Intel(R) PROSet の起動 】

1 [スタート] → [プログラム] → [Intel Network Adapters] → [Intel(R) PROSet] をクリックする

[Intel(R) PROSet] 画面が表示され、現在の状況に関する詳細情報が表示されます。画面を閉じる場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。

画面を閉じた後、タスクバーの [Intel(R) PROSet] アイコンをダブルクリックすると、もう 1 度 [Intel(R) PROSet] 画面が表示されます。アイコンを右クリックすると、オプションメニューが表示されます。

<ヘルプの起動>

「Intel(R) PROSet」のオンラインヘルプにはソフトウェアとドライバの機能に関する情報が記載されています。

オンラインヘルプを起動するには、次のいずれかを行ってください。

- [Intel(R) PROSet] 画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
- [Intel(R) PROSet] 画面が表示されているときに、キーボードの(F1)キーを押す

Celeron モデルの場合

「Wireless Client Manager」を使用して、次の機能を利用できます。

- ネットワークへの無線接続の状況を確認する
- 無線 LAN の設定を表示／変更する

【 Wireless Client Manager のインストール 】

「Wireless Client Manager」をご使用の際はアプリケーション CD-ROM からインストールしてください。インストールはコンピュータの管理者アカウントで行います。

【 Wireless Client Manager の起動 】

1 [スタート] → [プログラム] → [Wireless] → [Client Manager] をクリックする

「Wireless Client Manager」が起動し、タスクバーに [Wireless Client Manager] アイコン () が表示されます。

[Wireless クライアントマネージャ] 画面が表示され、現在の状況に関する詳細情報が表示されます。画面を閉じる場合は [OK] ボタンをクリックしてください。

<電波環境を確認する>

ネットワーク接続の電波状況はタスクバーの [Wireless Client Manager] アイコンの表示で確認できます。

アイコンが表示する電波状況が「不適」または「困難」のときは、表に記載されている処置を行ってください。

アイコン	説明	色
	電波状況最適	緑
	電波状況良好	緑
	電波状況不適： 電波信号が弱くなっています。無線LANアクセスポイントの近くに移動してください。	黄
	電波状況困難： 無線信号が極端に弱くなっています。ファイルを保存し、無線LANアクセスポイントの近くに移動してください。	赤
	電波状況を確認できません。 次のどちらかの原因が考えられます。 ・初期接続を探索中 ・ネットワークの範囲の外に移動してしまっている	赤
	次のどちらかの状態です。 ・無線LANが動作していない ・ピア・ツー・ピアネットワーク接続	空白

<ヘルプの起動>

「Wireless Client Manager」のオンラインヘルプにはソフトウェアとドライバの機能に関する情報が記載されています。

タスクバーの [Wireless Client Manager] アイコンを右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] → [目次] をクリックしてください。

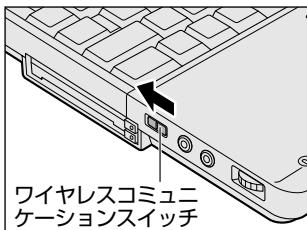
4 無線LANを使う

⚠ 警告

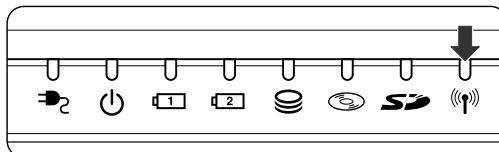
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

無線 LAN 機能の起動方法

- 1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション  LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

タスクバーのアイコンで通信状態を確認してください。Windows XP の場合は「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」、Windows 2000 の Pentium M モデルは「Intel(R) PROSet」、Celeron モデルは「Wireless Client Manager」からそれぞれ接続の設定を行ってください。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線 LAN モデルでは、無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) により自動でプロファイルを切り替える機能を使って、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LAN ケーブルを抜いたときに、自動で無線 LAN に切り替える機能も用意されています。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動するとタスクバーにアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ConfigFree] をクリックする
タスクバーにアイコン () が表示され、[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面と「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降「ConfigFree」の説明画面が必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

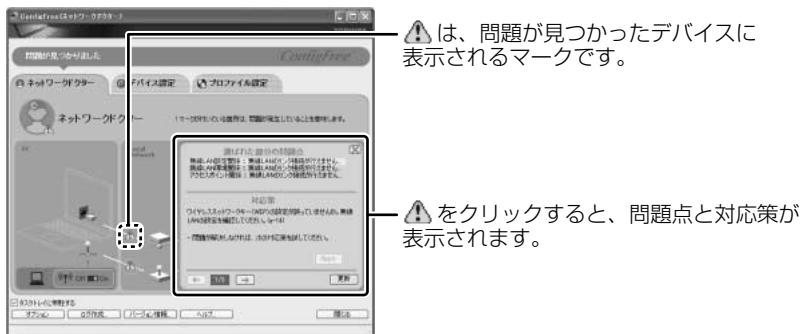
1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから [ネットワークドクター] をクリックする

[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面が表示されます。

[[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面]



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタをあわせると、それぞれのデバイスの説明やIPアドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから有効／無効にしたいデバイス名にポインタをあわせ①、有効／無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【 その他のデバイス設定 】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- **自動切り替え（ケーブル切断）**

*無線 LAN モデルのみ

[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。

- **ネットワーク接続**

[ネットワーク接続] ボタンをクリックして表示される画面から、ネットワーク接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

- 1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックする

メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

- 2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【 その他のプロファイル設定 】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行なうことができます。

- **プロファイルの追加**

[追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

- **プロファイルの削除**

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

● 自動切り替え (SSID)

無線 LAN モデルのみサポートします。

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。

[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶プロジェクタ : TLP-T720J / TLP-T721J。2003 年 7 月現在) との通信設定を簡単に行えるクリックコネクト機能などがあります。

終了方法

- 1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動後、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ファーストユーザーズガイド] をクリックする

9 内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分歧アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

Pentium M モデルでは、次の地域でも使用できます。

アルゼンチン、ブラジル、メキシコ

(2003年7月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく
変更できない場合があります。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のユーザーアカウ
ントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとすると、エラーメッ
セージが表示され、起動できないことがあります。

1 設定方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をク
リックする

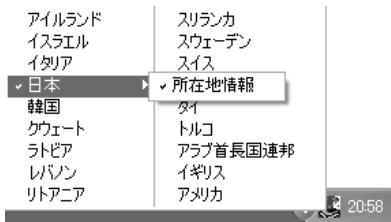
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () がタスク
バーに表示されます。



- タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコ
ン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマー
クがつきます。



- 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックす
ると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情
報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

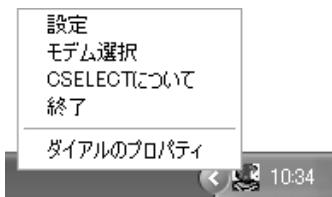
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイアルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器について	98
2	PC カードを接続する	99
3	USB 対応機器を接続する	102
4	テレビを接続する	104
5	CRT ディスプレイを接続する	109
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	110
7	その他の機器を接続する	112
8	メモリを増設する	114

1 周辺機器について

周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

2 PC カードを接続する

本製品のPCカードスロットでは、PC Card Standard 準拠のTYPE II / III対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット0にTYPE IIIのPCカードを取り付けたときは、スロット1にPCカードを取り付けることはできません。

使用スロット：1（上側）	TYPE II
使用スロット：0（下側）	TYPE II / III

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

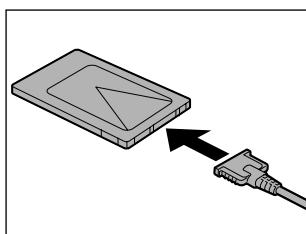
使用しているPCカードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

- ● ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- ● PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- ● PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

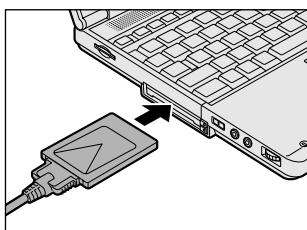
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

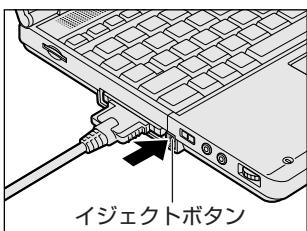


- タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする



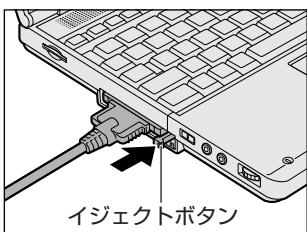
- タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を停止します] をクリックする
- 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 イジェクトボタンを押す



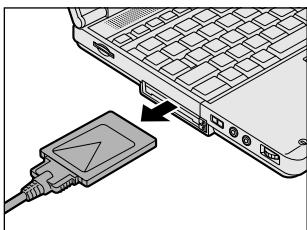
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう一度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまで押してください。
カードが少し出します。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

3 USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

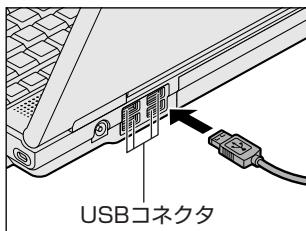
本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する



- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする



- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

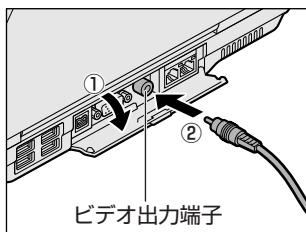
4 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

市販のビデオケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 表示装置を切り替える

表示装置を切り替えるには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- マルチドライブモデルでは、DVD-Videoを再生する前に、必ず表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - データの読み出しや書き込みをしている間
 - 通信を行っている間

方法 1— 画面のプロパティで設定する

1 [XP]

[コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [画面] をクリックする

2000

[コントロールパネル] を開き、[画面] をダブルクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブで [詳細] または [詳細設定] ボタンをクリックする

* 以降の手順は、使用しているモデルによって異なります。

使用しているモデルの手順を参照してください。

【Pentium M モデルの場合】

1 [Intel(R) Extreme Graphics] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする

2 [デバイス] タブで表示する装置と形式を選択する



画面はテレビとCRTディスプレイを接続した場合です。接続している表示装置のアイコンのみ表示されます。

がついているアイコンが現在の表示です。

変更するときは左側の表示装置のアイコンをクリックしたあと、形式を選択します。

- 内部液晶ディスプレイだけに表示
[ノートブック] アイコンをクリック
- テレビだけに表示
[テレビ] アイコンをクリック
- CRT ディスプレイだけに表示
[PCモニタ] アイコンをクリック

● Clone 表示

2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリック

②表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイで Clone 表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイと テレビで Clone 表示	ノートブック	テレビ

● 拡張表示

2つの表示装置を 1 つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

① [拡張デスクトップ] アイコンをクリック

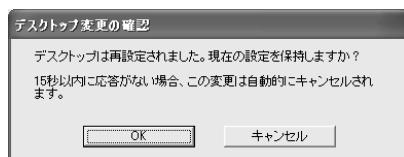
[拡張デスクトップ] アイコンが表示されていない場合は、▼ボタンをクリックしてください。

②表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイと テレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

3 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



4 [OK] ボタンをクリックする

5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【Celeron モデルの場合】

1 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD 内部液晶ディスプレイに表示
- CRT CRT ディスプレイに表示
- [LCD] と [CRT] を有効にすると、同時表示されます。
- TV テレビに表示
- [LCD] と [TV] を有効にすると、同時表示されます。

2 [OK] ボタンをクリックする

3 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

方法 2— [Fn] + [F5] キーを使う

[Fn] キーを押したまま [F5] キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。[F5] キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、[Fn] キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、[Fn] + [F5] キーを 3 秒以上押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に [Fn] + [F5] キーを押したときのみ有効です。

● Pentium M モデル



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示
- CRT CRT ディスプレイを接続している / していないに関わらず、CRT ディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している / していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

● Celeron モデル



複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows のログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザの切り替え] で切り替えた場合は、[Fn] + [F5] キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ➔ ユーザアカウントの切り替え 『Windows のヘルプ』

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

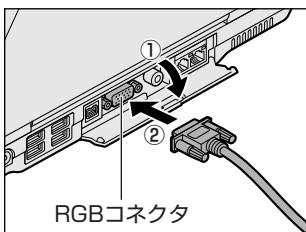
5 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

- パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 CRT ディスプレイに表示する

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能で表示自動停止機能を設定して CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

表示装置の切り替え方法「本章 4-2 表示装置を切り替える」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

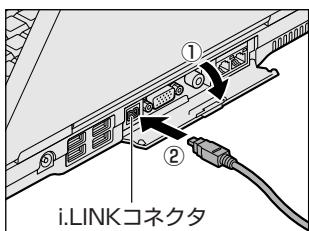
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルレビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをi.LINKコネクタに差し込む②



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグをi.LINK対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK機器の使用を停止する



- ①タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン()をクリックする
- ②表示されたメニューから取りはずすi.LINK対応機器を選択する
- ③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる]ボタン()をクリックする



- ①タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコン()をクリックする
- ②表示されたメニューから取りはずすi.LINK対応機器を選択する
- ③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックする

※デジタルビデオカメラの種類によっては、手順1は必要ありません。

- 2 パソコン本体とi.LINK対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

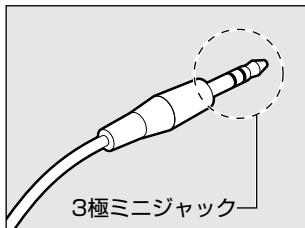
7 その他の機器を接続する

1) マイクロホン

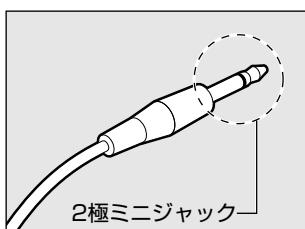
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 ➤ サウンド機能について「3章 5 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。

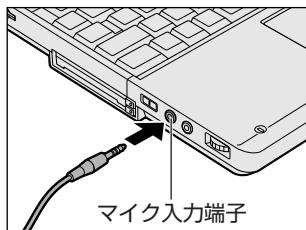


3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

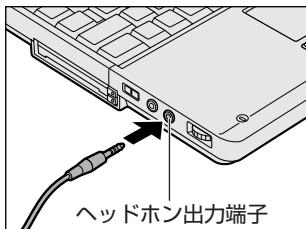
お願い

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大1GBまでです。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがあるので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が鳴ります。スロットAがエラーの場合は「ピー・ピッ」と、スロットBがエラーの場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。また、2つのスロットがエラーの場合には、A→Bの順に「ピー・ピッ・ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

静電気について

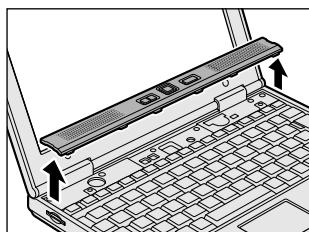
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触るだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

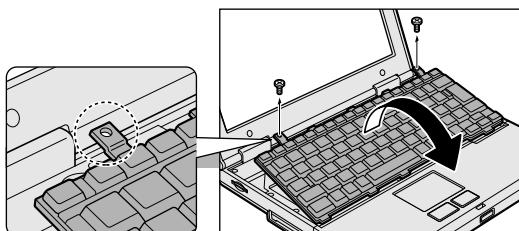
 バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす



キーボードホルダ両側にある切り欠き部に指をかけ、右側からゆっくりと慎重に引き上げます。

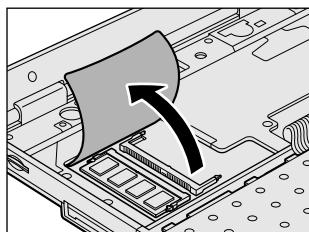
5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す



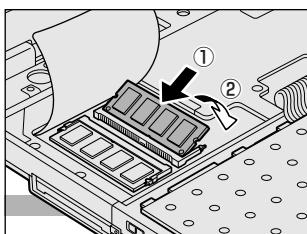
お願い

- キーボードの裏には、接続ケーブルがあります。接続ケーブルは、はずしたり、傷つけたり、無理な力を加えないでください。断線や接触不良の原因となり、キー入力ができなくなるおそれがあります。
- キーボードをディスプレイに立てかけたりぶつけたりして、傷をつけないようにしてください。

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



7 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しつかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

お願い

- インシュレータは必ず元に戻してください。キーボードとパソコン内部が接触すると動作不良の原因となります。

9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

まずパソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを挿し込み、キーボードホルダ後面と左右を押して取り付けます。

11 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

-
- 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす
 - 5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す
 - 6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる
 - 7 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。
 - 8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す
 - 9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる
 - 10 キーボードホルダを取り付ける
 - 11 バッテリパックを取り付ける

参照 ➔ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ➔ メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

メインメモリはビデオRAMと共に用いたため、[基本情報の表示] で表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。